

ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学

名前 平川秀樹

作成日 2023年3月20日

【責任】

建築学科に所属し、主に建築環境工学に係わる研究・教育活動を行っている。主な教育活動は、断熱や防湿・気密の理論と設計・施工、建築物の省エネルギーとCO2排出量削減、音や光など、建築環境・設備分野の講義や演習であり、そのほかに設計製図やグループワークに関する授業も担当している。研究活動の主なテーマは既存建築物の省エネルギーや性能向上改修であり、卒業研究のテーマもそれらに関連した内容を中心にして実施している。

【理念】

建築には多くの人に関わり、それぞれの専門技術や責任をもって、各専門に特化した役割を担うことになるので、周囲とのコミュニケーションと役割の認識は重要になる。学生には、自分はその道のプロである（あるいはプロになる）という自信と自覚を持ち、最初のうちは知識や経験が浅くとも、周囲のプロから多くのことを学び取る姿勢を持ち、安全第一でより良い建物の実現を目指して、常に取り組んでほしい。そして、自分の知識や経験を活かし、自分が関わる仕事や組織などの問題点・改善点とともに自らの目標を考え、それを人に伝えることができるようになってもらいたい。

また、資格の取得を常に意識し、実現を目指して取り組むことを学生のうちから心がけてほしい。

【方針・方法】

学生には提案することを求め、そのために自ら積極的に考え、質問し、学び取ることを方針としている。

1) 自らの考えを表現し発信させる

- ・ある問題に対して各自の提案や対応を引き出す課題を設定する。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、説明や発表の機会を多く設ける
- ・グループで課題に取り組み、それぞれの役割を認識させる。

2) 基礎知識を確実に身に着け、常にそれを振り返ることをする。

- ・ セクション毎に小テストを行って、理解度を判断する。
- ・ 対話やメールなど、学生がアクセスしやすい方法で質問を受け付ける。
- ・ 質問が多い内容については、次の授業等で振り返りの時間を多くとり、疑問点を解消するように配慮する。
- ・ 単に知識の詰め込みではなく、その知識が何に活かされ、あるいは欠落がどのような問題を引き起こすかなど、前後の関係性なども含めて説明する。

3) 経験することを取り入れる

- ・ 建設中の過程を映像化し、疑似的にでも経験できるようにする。
- ・ 音や光などの体験ができるアプリケーションを導入する。
- ・ 実際の建物における音や光の感覚を体験する。
- ・ 実際の工事現場を見学し、その工事が何を目的に行われているのかを認識させる。

【評価・成果】

- ・ 授業評価アンケートにおいては、受講者の過半数が満足と回答している。
- ・ 授業の内容は「断熱施工技術者」資格のテキストにも反映されており、将来の資格取得に向けての学習も兼ねることができる。

【目標】

- ・ 年度によらず安定した評価を行うため全授業にルーブリックを導入する。
- ・ 学生から発信や提案を行う授業を確立する。
- ・ 経験が残る授業の方法を確立する。